

会員のば

車の色は？

札幌市医師会
中の島ただ眼科

竹田 明

2005年、15年乗ってきたM社製の3000CC 4WDの黒のセダンの愛車が壊れた。前年の夏のある日にはクラッチが滑って3速に入らずゴルフ場にタクシーで行き、また冬のある日には交差点で信号待ちの時、エンジンが止まり立ち往生、直前に給油したガソリンスタンドに助けを求めた。コンピューターが壊れていたようだ。長年乗ってきて愛着があるので、何とか修理したものの、9月の車検更新はどうするかと考えるようになっていた。当時M社の4WDセダンはもう少し小さい車種しか作っておらず、同じ車種の製造は中止していた。雪の多い北海道の札幌では、4WDは一度乗ってしまうとFFやFRには戻れない。4WDと言えばH社のSが有名であるが大きいセダンは無かった。トラックみたいな4WDはM社でもT社でもN社でも販売していたが、セダンはN社のFしか販売されていなかった。海外の車は眼中に無かった。

7月のある日、近所の居酒屋Jで飲みながら、車を新しくしたいことを話していたら、カウンターの端で飲んでいたT社にお勤めのTさんが「自社で10月に新しいサービスシステムのセダンを発売する。とにかく何でもする。面倒な手続きやタイヤ交換はもちろん、定期検査、事故処理やトラブル処理、不案内な土地での誘導・ホテルの予約やお勤めの飲食店の案内等、いろいろなサービスが受けられる。しかし少々お高い。今私が乗っている車と同じくらい大きさで4WDもある」と教えてくれた。更にカーリースというシステムも教えてくれた。かなり心が動かされた。

車検が近づいてきて何かを選ばなければならなくなった。T社のLとN社のFが候補に挙がり、試乗して操作性や居住性、カーリースの条件等を比べた。甲乙付かず迷ったが、「何でもするサービス」の一言が決定的になり、T社のLに決めた。

Lの最初の車種はGS350で、FRとAWD (all wheel drive) があり、AWDを選んだ。車体の色は落ち着

いたシックなダークグリーンを選んだ。運転操作性、居住性、シートの座り心地、安定性、静寂性は申し分がない。多様なサービスに満足した。

あっという間に3年近くが経ち、車検が近付いた。車検を更新してあと2年間同じ車に乗るか、新車にして3年間乗るかを判断する時が来た。リースの料金は1ヵ月に数千円の差しか無いので、新車で3年リースを選んだ。今の車種で性能には特に不満は無かったので、同じ車種の新しいモデルにした。色はどうでしょうか？ 今はダークグリーンで、とてもシックで落ち着いているが、汚れは目立つ。白やシルバーは、車は目立つが、汚れはあまり目立たない。赤は素敵で黒は重厚だが、やはり汚れはかなり目立つ。しょっちゅう洗車が必要だ。カタログや、色見本を見ながらどうしようかと迷っていた。

あれこれと悩んでいたが、ある時、行き付けの飲み屋Hで年齢の話になった。その亭主と私は同い年で、30年来の付き合いだ。お互い、年を取った、再来年は年男だなどと言い、それを酒肴にしながら飲んだ。酔っぱらって家に帰ると、次の車検までに還暦が来てしまうことに気が付いた。そうだ！ この際だから車の色も思い切って赤にしよう。今時赤いちゃんちゃんこに赤い頭巾は流行らないが、若い頃にはとても乗る勇気の出なかった赤い車も、今なら良いのではないかと気付いた。色彩に関する仕事をしている家内にその話をしてみると、「そうしてみれば」と案外簡単に賛同してくれた。カタログや、色見本を見直してみると、真っ赤ではなく深みのある赤で、なかなか素敵だ。さっそく赤に決定して注文した。1ヵ月半ほどで車が届き、赤色の外観を見ながらドキドキして乗ってみると、車内は予想に反し普通の感じで、抵抗は無い。運転席からその素敵な赤色が見えるのは、ボンネットの一部とドアミラーだけで、あまり緊張せずに運転できた。当時は赤い車はほとんど走っていなかった。還暦を迎えた年、運転手本人の中身はどうにも変える術がないので、車の赤い外観に何とかコーディネートするべく、ジャケットやコートなど衣類の色を選んで楽しく運転していた。

2018年、あれから3台同じ色の車に乗ってきたが、最近同じような赤色の車が増えてきたのを感じるようになってきた。9年前には珍しかったのだが、L車5台目の今回は、現在走っている車には無い、もう少し明るく、少し変わった色を選んでみた。古希まで2年、新しい色の車でどんな生活になるのか楽しみである。

春に思う

札幌市医師会
小児科西町クリニック

池田 和男

クリニックの狭い自室（一応院長室です）に、春の訪れを感じさせる午後の暖かな日が差し込んでいます。今日は保育園健診や研究会の予定もない午後休診の日。先ほど、初孫の幼稚園の入園式の写真がケータイに送られてきました。自宅から徒歩で通える幼稚園を選んだようです。有名デザイナーのものではないのでしょうかけれど、制服・制帽のちょっと緊張した孫と息子、お嫁さんの写真です。わが息子もいつの間にかすっかりオジサンの風情が漂っています。

東京女子医大心研小児科での私の研修に伴い、息子は新宿の保育園に通い、私が当時の道立小児センター（現：コドモックル）に戻ってからは銭函での幼稚園生活を経験しています。息子が保育園から大学を卒業するまでに、入学式・卒業式・父兄参観日などに参加したのはたった一度きり、小学校の入学式だけです。もうすぐ式が始まろうとしている時に「センターへすぐにお戻りください」と校内放送が入りました。当時携帯電話は無く、今は既に役目を終えたポケベルも持っていなかったのでしょうか？記憶は定かではありません。センターに戻ると同時に小樽から救急車が到着。意識レベル低下・高度徐脈・血圧低下の、息子と同じ年頃の男の子で、ウイルス性心筋炎による完全房室ブロック、Adams-Stokes発作でした。一時的ペースングを要しましたが、1ヵ月半ほどで元気に退院していきました。

その後、入学式の時のことを尋ねたことはありませんが、息子が小学校の卒業を控えた頃に「将来は何になりたい？」と尋ねたことがありました。「マイホームパパになる！」と即答されたのにはびっくりしました。現在30代半ばになった息子は、人工関節を扱う会社の営業マンとして頑張っているようです。出張が多く、毎日忙しく働いているようですが、小学校の時に抱いた将来の夢(?)の「マイホームパパ」を実行中なのか、自宅に居る時は「パパン、パパン！」と自分の息子に追いかけてられているようです。小学校の入学式以外、父兄参観日などの学校行事には一度も行かない（行けない？）父親を、息子はどう思っていたのでしょうか。父親と同じ道を選択しなかったところにその心が見えるようです。

30年近く前のあのS-Aの男の子は、今では患者さんのお父さんとして、二人の男の子と奥さんと一緒に時々クリニックに顔を出してくれています。小児科医冥利に尽きると言えそうです。孫の入園の日、春の暖かな日差しに眠気を催しながら机に向かい、この文章を書いています。

北海道の大都市の中の 小さな自然

札幌市医師会
独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院

竹内 正

企業の専属産業医を25年近く務め定年退職し、東京から札幌に転居して5年あまりが経った。野山の散策が好きな私にとって、北海道は以前から憧れの地。幸いなことに非常勤で働かせていただける病院も見付き、何とか道民の“一員”として日々を送らせていただいている。マンション10階のわが家から間近に見える札幌周辺の山々は私をじっとさせていてくれない。関東地方ではお目に掛かったことのない『熊出没』の注意書きにおびえながら、一人熊鈴を鳴らし、大声を出しながら幾山も征服。また遠く北方に稜線を横たえる暑寒別岳。高齢、腰痛、車無し、山仲間無しで諦めていた登山が、昨年ツアー参加でついに実現！ 四季折々のその山容がわが家の窓からくっきり見えるたびに胸が熱くなる思いである。

札幌に転居した喜びを最も強く実感するのはしかし、市内の身近な自然である。通勤途中で通る、勤務する病院近くの、ひと跳びで渡れそうな小川沿いの緑地帯。大都市の住宅地の中の整備された小さな公園だが、かなり大きなハルニレやオニグルミ、センノキなど多種の樹木とクマイザサも繁る人の手が入った自然が残っている。そこで出会う生き物たち——

- ♣ 頭上の枝から闖入者の私を威嚇したり、雪の下に隠したオニグルミの実を探すエゾリス
- ♣ 川沿いの雪の庇の下を探るミソサザイ
- ♣ 大雪となった初雪の朝、上流の森から川沿いに迷い込んできたのか、エゾシカの姿
- ♣ 春から初夏にはアオジ、オオルリ、キビタキなどの見事なさえずり
- ♣ 小径で毛繕いするキタキツネ

9月、この小さな川をしぶきを上げて遡上する50センチを超えるサクラマスを見た時は思わず“うわっ、北海道！”と声が出てしまった。ほかにも植物や昆虫類など、単に北海道固有種だけでなく、関東でも見られるはずの多くの生き物たちに会える。北海道で生まれ育った方には、これらはごく当たり前の光景なのだろうか？ 確かに東京でも郊外に行けば出会えるかもしれないが、大都市の中で、それも通勤途中でこのような光景を目にするのは、私には奇跡的としか思えない。これこそが北海道の“北海道らしい魅力”の根源ではないかと思う。この魅力を失わないためには、周囲の森や山々の存在、その互いの繋がりを含めた生態系の持続・維持が必要不可欠である。これからもこの北海道らしさが失われないよう願っている。

漫画ばかり読んでると 馬鹿になるよ

札幌市医師会
旭山病院

山家 研司

少年週刊漫画誌「少年サンデー」と「少年マガジン」が売り出されたのは小学3年生の時、定価30円だった。サンデーでは手塚治虫の「0マン」、マガジンでは石森章太郎の「怪傑ハリマオ」なんかに夢中になった。級友数人と鉄クズを拾い集めたお金で買い続けたけど、教室で回し読みする時は先生に見つかり「こんなものばかり読んでると馬鹿になるよ」と取り上げられるので、隠すのが大変だった。以来60年、ほとんど切らすことなく漫画誌を読み続けてきた。

高校生になった時、月刊青年漫画誌「ガロ」と「COM」が刊行された。この二誌で出会った漫画家たち、白戸三平、つげ義春、永島慎二、松本零士等の作品群は、今でもその1コマまで記憶に残っている。特に手塚治虫の「火の鳥」が描く世界のインパクトは強烈だった。医学博士でもある手塚に絵心の全くない僕が少しでも近づくには、医者になることぐらいと思って受験勉強をしていたようなものだった。

ブラウン管でのアニメ漫画ももちろん「鉄腕アトム」を筆頭に夢中になった。手塚は良質な漫画、アニメ作品を、採算を度外視して送り続け破産してしまうけど、その作品作りに携わった漫画家やアニメーターが育てて日本が世界に誇れるアニメ文化を築き上げた。

さて、漫画大好き少年だった僕も、もうちょっとで70歳の爺さんだ。最近は認知機能が落ちてきて馬鹿が目立ってきたけれど、漫画ばかり読んできたので馬鹿になっていたとは思えない。

紙で漫画に出会い、ブラウン管や劇場フィルムでも漫画アニメを楽しんできた僕が最近出会ったのは、電子書籍というタブレット版の漫画。「70の爺さんが漫画かよ」と言われそうだが、これもなかなか素晴らしい。「BLUE GIANT」(石塚真一)の主人公の大くんがジャズサクソプレイヤーとして世界に飛躍していくのを、仕事を忘れて楽しんでる。

国稀一杯やろう会

札幌市医師会
新道東おおた内科

太田 基

毎年3月の土曜日に、増毛の国稀酒造さんが開催している「国稀一杯やろう会」という会が、増毛のオーベルジュまじけで行われている、いわゆる新酒を飲む会である。ここ数年妻と毎年楽しみにして参加している。

会場では1卓11人ほどが19卓で、200人強が料理を楽しみながら好きな日本酒をほぼ飲み放題(最後の方ではやはり純米大吟醸が在庫切れのパターン)。ただお酒は定番の鬼ころしをはじめ北酔、暑寒美人、上撰の国稀、本醸造の蔵ばしり、千石場所、純米の吟風国稀や輸出用の純米大吟醸kunimare等ほとんど全てが出てきている。

そしてこの会で一番面白いのが利き酒大会。各卓で3種類の酒の利き酒を行い、みんなでこれが大吟醸だ、いやこれは鬼ころしだ等と言いながら解答用紙を本部へ、そして結果発表! 例年この予選で正解数の多かった卓から代表者がステージへ登壇となる。

今年は3問正解が1卓しかなく、ついで2問正解が9卓ということで、まず9卓の代表1人ずつがステージへ(実は今年私たちは遅刻してしまい予選の時は参加していなかったのだが、何故か私が卓の代表として登壇することとなった)。まだホテルに着いて間もなくであったため全然飲み足りなく、舌も絶好調! 1問目、9人一斉に試飲。「この酒は鬼ころしである、○か×か?」。私は「○」。正解は「○」。ここで3人脱落となり、酒の神が降臨したのか? なんといつもは鈍感な舌が冴えに冴え、3問連続正解し、この段階で2人になったため全問正解の卓の代表が登壇し、3人での決勝戦! 1問目、3人一斉に試飲。「この酒は上撰国稀である、○か×か?」。私は自信をもって「×」。「×」2人「○」1人。正解は「○」。この瞬間、私の狙っていた景品の純米大吟醸国稀1,800ml(税抜9,672円)はすり抜けていった。

このあと、閉会後はホテルの温泉につかり、部屋に戻って仲間といただけ飲んだくれたのは言うまでもない。

カナダスキー旅行

札幌市医師会
西村外科胃腸科

西村 護

この2～3年間、もうこれが最後と言いつつ、年末になると何となく出掛けていた海外スキー旅行。某スキー旅行代理店のパンフレットの旅程で、短期間と日本から近いとの理由で、カナダはウィスラーへ行くことにしました。

成田を発ち、雨煙るバンクーバーに降り立ち、チャーターバスでダウンタウンを通り抜け、スキーガイドの「バンクーバーは世界一住みよい都市で、中国系移民が20%以上を占める」との説明を受け、中国人は世界中どこでも居て、少し目立ち過ぎるなど思いつつ、湾岸沿いの道路を登り、ウィスラーの町に着きました。

われわれはコンドミニアムの滞中で、食事は出ないと覚悟していましたが、ウィスラーは五つ星のホテルでも朝食のみで、夕食が出ないところが多いとのことで、そのため到着日より夕食のレストランでの席確保のため、長蛇の列に並ぶのが一仕事となりました。

なるほど、スキーコースは広くニセコの4～5倍もあり、スキーガイドも居て、スキー滑走は十分楽しめたのですが、リフト代が馬鹿高く、シニアですら1日1人1万3千円くらいで、旧知の東京からの夫婦は2人で5日間16万円も取られたと、もうこんな所は来ないと憤懣やるかたない表情でした。

聞くとところによると、今年からアメリカ資本が入り、リフト代が2倍以上に値上がり、富裕層のみが対象で、若いスキーヤーが来たくても来られないとの由。4～5年前にバンフに来た時は、食べ物が美味かったとの印象でしたが、今回のウィスラーの場合は、ロブスター以外は値段の割にはあまり美味しい物がないとの印象で、このままでは世界有数のスキーリゾート地としてのウィスラーも衰退の予感。

ただ、日本から近いためか、われわれのグループも日本各地から総勢32名の団体で、金婚式のため3世代で出席した家族もいました。

スキー終了時、フェアウェルパーティで、われわれ夫婦が最高齢で「その年齢で海外へスキーに出掛けられる健康の秘訣は？」など質問され、少々照れくさい気分でした。

復路バンクーバー発の便が遅れ、成田での札幌への乗り継ぎ便が遅れ、あまりついていないツアーではありました。

冬眠の話

札幌市医師会
札幌田中病院

渡辺 祝安

わが家には、とある事情で息子より譲り受けたカメがいる。通称ミドリガメで、ミシシippiaカミミガメという。かれこれ9年目になるが、その生態に特段興味もなく飼っていた。寒くなる11月ごろから餌を食べなくなり、冬眠するのであろう。安否確認で飼っている納戸に時々見に行くのであるが、もちろんピクリともしない。しかし、決まって3月に入る頃、何事もなく冬眠から覚めてごそごそと動き出す。健康管理がいいせいなのか、とにかく丈夫で、毎年少しずつであるが大きくなっている。最近知ったのだが、冬眠中は水温5℃前後が適温であることから、まさにわが家の納戸の室温が5℃前後に保たれていたことにも驚いた。心臓血管外科医であった経験から、心臓大血管手術の補助手段として用いる超低体温法では、体外循環下に血液温を下げていくと直腸温で33℃ぐらいから心拍数が低下し、20℃前後で心室細動となるが、カメが冬眠中に体温が5℃前後に低下しても心停止に至らないことは驚異である。

調べてみると、カメに限らず冬眠する動物は低体温下で心臓障害を回避でき、心拍動を維持できるメカニズムが備わっているようだ。さらに興味深いのは、強制的に低体温にすると人間と同じく刺激伝導系の異常を示す心電図や、心筋の障害に起因する異常心電図が導出されるとのこと。このような異常心電図は、寒冷・短日環境に馴化させ冬眠を誘発したハムスターにおいても認められることから、冬眠準備期間の適応変化が、少なくとも急激な体温変化によってもたらされる障害を回避するメカニズムではないことを示している。脳室内にA1アンタゴニストを投与すると強制的低体温時も異常心電図が導出されないことから、脳内アデノシン系の活性化によってもたらされる生体反応が極度の低体温下で心拍動を維持する仕組みに関与しているものと推察されている。

冬眠のメカニズムの解明は脳障害時の低体温療法、移植臓器の保存への応用が目的だそうだが、SFに出てくる冬眠状態での宇宙旅行を夢想してしまった。

✂切考

日高医師会
新ひだか町立静内病院

林 卓宏

今般、北海道医師会より角型2号の封筒を受け取りました。つい最近、北海道医報を受け取ったばかりでおかしいなと思い手に取ると、びっくりするくらい軽いではありませんか。開封すると中に一枚のA4の紙が入っていました。北海道医報「会員のひろば」原稿執筆依頼でした。エッセイストに憧れていた小生としては、待ちに待ったお誘いでした。どのようにして小生が選定されたか定かではありませんが、大変ありがたく存じます。

依頼状を手にした瞬間、まず投稿規定を確認します。字数制限600～1,000字か。あれ、1,600～2,000字の1ページ消費でも可能と書いてあります。とても1ページ分のコラムを書く自信はないので、前者の文字数を目標として執筆することとしました。そしてここが一番大事なのですが、次に確認する重要事項は締切日です。「平成30年4月23日(月)」となっていました。書類を受け取ったのが3月初旬でしたので、その時点でやたら時間に余裕があると感じたものです。至極楽勝と高を括っていました。後々、ゆっくり題材を考えることができるなど机の引き出しにこの依頼状を仕舞い込んで、日記帳にメモをしようとしたのですが、その時ちょうど電話がかかってきたのです。生返事をしながらメモを取ったものですから、間違っって3月23日のところに「原稿締切日」と記載を入れてしまいました。人間、覚書をする途端に油断してしまいます。メモを取るという簡単な作業で、仕事の半分は終わった気分になるからです。当然、原稿依頼のことをすっかり忘れて何の準備もなく時間は経過、3月21日春分の日、天気の良い水曜日になりました。

今日は、珍しく週半ばの孤立した休日だなと思っふと日記帳を見ると、何とその2日後に「原稿締切日」という記載が目に入りました。その時の気分は、いきなり頭を後ろからぶん殴られたような気分で、身体的な変化としては一瞬目の前が真っ暗になって心拍数が3倍くらいに急上昇し、嫌な汗がどつと噴き出しました。学生時代に、試験でこりゃ満点だと思っっていたのに帰って来た答案が15点だった時の気分に似ています。のんびりした休日モードがいきなり臨戦態勢に急変。ネタ探しのためにありとあらゆる書籍をひっくり返し、部屋は瞬く間に足の踏み場がなくなりました。ここで、以前に読んでいた「✂切本」(左右社)をふと思い出しました。その中に「勉強意図と締め切りまでの時間的距離感が勉強時

間の予測に及ぼす影響」(樋口 収)という論文が掲載されていたのです。「夏休み始まりの当初は、宿題は期間中に終わっているだろう」「老後の貯蓄は十分に確保されている」「オリンピックは経費的にも十分に開催可能」という例を持ち出して、人間は遠い将来の物事ほど楽観的に考えやすいとされています。しかしながら実際には現実には厳しく、大体はこれら予想の逆になってしまう。過去の事例でも同じ結果になると予想できるはずなのに、なぜこれほど人間は楽観的なのかという疑問から実験を積み重ねた結果、予想する将来が遠い時のことであるほど、自分の思った通りに実行できると考えやすく、過去の類似経験や遂行を阻害する要因などを過小評価しやすいためと結論付けていました。そして、これら防止策は将来のことをできるだけ具体的に考えることと締めくくられていましたが、この論文を書いた樋口先生も「✂切本」に脱稿するにあたって、なんと締切日に間に合わずに詫言を入れたというおまけがついたということです。そんなことを書いているうちになんだかコラムらしくなってきたので、もうこのまま自分も脱稿しようと北海道医師会の住所を確認するため、引き出しにしまいこんだ依頼状を探し出して愕然としました。締切日は1ヵ月先の4月23日。この時、初めて締切日を間違っていたということに気付いたのです。今回は早い方に間違っしたので、一時的な精神的・肉体的な苦痛があっただけでむしろ時間的に得をしたわけですが、これが逆に1ヵ月遅く間違っって設定されていたらと思うと、寒心に堪えません。しかし、このコラムが掲載される頃は、予想では初夏の時期と思われますので、自分でその時期に読み返しても「ふーん、つらかったんだな」と他人事のように思っているはずです。やはり、過去の類似経験や遂行を阻害する要因などは過小評価されてしまうのでしょうか。いつまでたっても進歩がないわけですね。

今回のコラムは、当初、趣味のことなどを皆さんにご紹介するつもりでしたが、全く違う方向になってしまいましたことをお詫言申し上げます。加えて、文字数も1,600字を大幅に超え、結局は駄文に1ページも費やしましたこと重ねてお詫言申し上げます。最後に、エッセイストに憧れていましたが、こんな駄文しか書けない自分はエッセイストには向いていないと確信いたしました。外来診療に専念いたします。

赤字

札幌市医師会
しのろ眼科医院

小阪 貴

原稿提出のご指定でしたので一筆啓上。中身の無い老人の愚痴のみですので、どうぞスルーしてください。間違っても貴重な時間を浪費されませんよう。

先日、新聞に「〇〇病院巨額累積赤字」との記事が出ました。「えっ、あの質実剛健・大胆不敵な病院が？」と目が点になりました。そして、そこでの30年以上前の一年間が鮮やかに蘇り、さらに人類の英知を極限まで駆使しても、医療経営は結局赤字になるのかと悲しくなりました。

当時の院長先生は、年来の大赤字を黒字化して「〇〇病院中興の祖」と呼ばれた方で、旧帝国海軍の江田島海軍兵学校のご出身とのこと。上下の背広型白衣で、背筋がピンと伸び、白い軍帽と海軍式短剣を吊れば、まるで戦艦「大和」の連合艦隊司令長官山本五十六元帥のようでした。さて、その「必勝の信念」と「突撃精神」に裏付けされた壮絶な作戦とは。

(1) 赴任旅費の巻

もらった茶封筒には、あて先「〇〇病院事務局様」で、切手に消印が。

「何これ？」

「あー、それ裏です」

ひっくり返すと、掠れたゴム印で「旅費」と。「来た封筒を取り置いて、どうでもいい時に再利用か！」とびっくり。そして、中身が2,500円でまたびっくり。「小学生の遠足のバス代か？」。

ところが次の日、事務官が青い顔して飛んできて、

「すみません。ミスでした」

「そうだよー。2桁ミスったのね」

「とんでもない。500円多かったです。返してください」

なんと、札幌からの一年交代出張医の旅費が2,000円ぽっきりだったんです。「当院の旅費は、国鉄の普通列車料金で算出します」と胸を張って帰りました。もちろん、正社員じゃないですけど、家族持ちの先生なら大赤字ですよ。T病院に出張した先生は、私の60倍でした。ここは、舌も出さないんだと絶句！

(2) カルテの巻

出てくるカルテが、シワシワガバガバなんです。なんと、眼科受付で、あの「ヤマトのり」で1枚ずつペタペタ貼っているんです。子どもの図工じゃあるまいし。水分が多いからガバガバで、乾きが遅い

のでめくるとペロッと剥げるんです。これには耐えられず、私財投入でスティックのりを大量に買い込み、使用してもらいました。ため息が！

(3) マジックペンの巻

出なくなったのでポイしたら、看護師さんが飛んできて、

「ダメです。再利用するので、捨てたら大目玉です」

「えっ、これ使い切りタイプだよ？」

「違うんです。事務にインクがボトルキープしてあり、営繕のおじさんがアルミチューブをこじ開けて補充するんです」

再び絶句です！

(4) 扇風機の巻

眼科は、ほぼ暗室内での仕事です。かの地は、夏は酷暑で冬は極寒の地。病院の窓は何故かおしゃれで、一面のみの窓は両側が少しだけ開くタイプ。これに暗幕ですから、風はまず入りません。夏は患者さんと共に汗びっしょりです。せめて扇風機をと泣いても「そんな予算は無理です」。とうとう、自分の宿舍用に買った私物を、毎日持参通勤となりました。

信じられます？ まあ、書き始めたら止まりません。

しかし、この病院の医療の質は高く、私の上司の先生・他科の先生方・看護師さんたちは皆さん勤勉で、素晴らしい人ばかりでした。おかげさまで、何とか一年間夜逃げせずに済みました。でも、あの院長先生の退官後、反動で普通の経営に戻っちゃったんでしょうか？ 〇〇病院の前途に、幸多かれと祈らずにはいられません。

追伸

また新聞に「巨大赤字解消のため、医師と看護師の給与のみ削減か？ 身を切る経営努力が、強く求められている」と出ました。失礼ながら、あの当時でも、病院の医師給与額は相当に身を切っていたはず。悲しい時代になってきました。日本の夜明けは、まだ遠いのでしょうか。

横綱常在不要

札幌市医師会
札幌新川整形外科

村上 俊也

年末よりワイドショーを賑わせる大相撲界のゴシップ。私も大相撲や横綱について考えてみた。

日本の相撲は「すまひ；力くらべの意味」が語源とされる。神事、祭祀、武芸の意味合いがあり、平安時代には天覧試合が七夕行事の余興として行われていたそうである。その興行を主宰し、行司役を務めるのが相撲司家で、公家や大名に庇護され、戦国時代にはすでに記録があったそうである。近世まで、その宗家は細川熊本藩に庇護された吉田司家であった。他に十指に余る有力行司家があったが、現在残るのは木村家、式守家のみである。

ところで、古来より寺社建立などの地鎮祭において、地固め式として腰にしめ縄を巻き、四股を踏み、邪気払いをする習わしがあったそうである。その際、腰に巻く白い麻で編んだ太いしめ縄を「横綱」といった。これを相撲興行が盛り上げるために土俵入りの演出に取り入れたのが吉田司家であるといわれている。1789年谷風、小野川にその使用の免許を与えたのがその始まりである。もとより大相撲の最高位は大関であったので、番付上の地位ではなく別格の称号であった。それが階級として成文化したのは二十世紀に入ってからである。

そもそも、しめ縄は御神体を囲む神祭具である。糸の字の象形をなす紙垂（しで；雷光、稲妻をあらわし豊穰祈願を表す）をつけた縄には常世と現世を隔てる結界の役割があり、しめ縄を巻かれたものは依り代として神の宿るものとされている。商魂たくましい思い付きであったものである。

現在、大相撲を主催する日本相撲協会は公益財団法人である。前身は1925年、相撲文化の継承と普及を目的に認可された。その定款には「相撲道の指導、普及を以て国民の心身向上に寄与する」とあり、全国規模での営利興行を許された唯一の法人である。年6回の本場所ごとに天皇賜杯が与えられる優遇ぶりをご存じのとおり。通常のスポーツ大会では全国大会で優勝しても天皇賜杯は貰えない。特別な荣誉にのみ下賜されるものだからである。大相撲が長い歴史を備え、その取り組みが真剣であるからであろう。しかるに最近、興行に偏り過ぎるとの批判や、力士らによる八百長、暴行、賭博、大麻使用などの品行不正が数々明かされている。その活動実体を想像するに、公益法人が備える通念。例えば社会に還元する学術や慈善、宗教活動に当たるのかと云えよ否であろう。今日のように営利優先事業を専らにす

るのであれば税制優遇が得られる公益法人にはなじまない。いっそ公益法人格を返上し、プロレス団体のようになったらよいのではないだろうか。取り組みの脚色も多少なら許されるだろうし、力士同士の星勘定による貸し借りがあっても、世間から非難を被ることも無いだろう。

次に品格に言及される横綱についてである。横綱は自分より格下の者と対戦するわけだから、相撲の質が問われるとされる。勝てば良いという相撲は、大関までに許されるものである。その勝ち姿が大切なのである。大関以下の力士は技量が衰えても、実力に見合う番付で現役を続けることができるが、横綱には降格がなく、常に最高の相撲内容、成績を求められる。横綱になるには日本相撲協会の諮問機関である横綱審議委員会による推挙が必要で、その条件は大関として二場所連続優勝か、それに準じる成績を収める。さらに力士として品格、力量が抜群であるとしている。最近、白鵬がたびたび使う「かち上げ」はいわゆる肘打ちであるが、空手試合（猿臂という）では膝蹴り同様、禁じ手になっている。なぜかという威力が大きく、制御が難しいからである。これは相手の懐へ飛び込んで行く捨て身技であり、弱者が強者に使うものであり、横綱の取り口にはないものである。白鵬が取り組み後、土俵下から物言いをしたことがあったが、下品の極みであった。品格を維持できなくなる前に横綱は自ら引退すべきである。横審は推挙後の横綱の進退についても厳しくあって良いと考える。横綱を作った責任者なのだから。かつて横審メンバーであった内館牧子氏は、二場所連続優勝で自動的に横綱に成れるのなら、横審は要らないと言ったそうである。勝ち星を挙げるのが横綱の責務だと朝青龍は言ったそうだが、私はそうは思わない。勝てば良いだけであれば、千代の富士はもっと勝ち星を挙げていたのではないだろうか。横綱ぶりを国民は見ている。日本相撲協会が今後も堅苦しい因習の中で国技、相撲道を維持するというのなら、相撲は単なる興行ではなく真剣試合であるべきである。ゆえに力士生命は短命であり、そこに共感と感動が生まれるのである。また横綱は神格であるという日本の故事を守るべきである。横綱は特別なときに生まれる別格の力士である。すなわち横綱不在が常であり、世間もマスコミも横綱不在を嘆く必要はないのである。

三つ子の魂の結果として

札幌市医師会
新札幌パウロ病院

高階 俊光

気ぜわしい朝の通勤途中の地下鉄へ続くドアで、前を歩いていた若い男性が、後ろの私の気配に気が付いて少々立ち止まってドアを押さえてくれました。見知らぬ人からの気遣いに嬉しくなりました。それも高齢者ではなく意外に若者でしたので、なおさらのことです。最近は何だかこういうことには出会いません。最近若者のマナーの悪さが指摘されています。それで「ドアを押さえる」というちょっとした気遣いを調べてみたくなりました。

ここで述べる「ドアを押さえる」とは、デパートなどのビル、通路にある前後に開閉するドアで、先の人を足を止め、振り返って後の人のためにドアを押さえることです。

調べた結果は、仲間同士、恋人同士や夫婦間では年齢に関係なく男女どちらが先でも後の人のためにドアを100%（検討症例500組）押さえていました。これは知り合い同士の間柄ですから当然ともいえます。そうでない場合、すなわち先の人を後の見知らぬ人のためにどのくらいの割合でドアを押さえるかを、男女別、大雑把に見た目で「若年」「中年」「高齢者」の3群に分けて、計1,217人を観察してみました。その結果は、若年：男性9.5%（20/211）、女性10.1%（24/238）、中年：男性12.8%（38/296）、女性11.0%（26/236）、高齢者：男性9.2%（17/183）、女性11.3%（6/53）で、合計は10.8%（131/1217）。その内訳は男性10.9%（75/690）、女性10.6%（56/527）でした。

すなわち男女の割合は共におよそ10%であり、また見た目の3群はそれぞれの男女の年齢においてもほとんど差はなく、10%前後でした。私は女性の方の割合が多く、また人間は年齢とともに周囲に優しくなり、その頻度は確実に増加するものと考えていました。ところが私の予想は完全に裏切られました。

これらの結果を見て私が思ったことは、

- ① 他人への気遣いは「三つ子の魂百まで」の諺のように、子供の時に身に付いたものはそのまま持ち続け、若年、中年、そして高齢者になっても変わらない。
- ② ある新聞の世論調査で「日本人のマナーが悪くなったと9割の人が感じており、特に悪いのは若年層」と報じていますが、決して若年層ばかりではない。

10人中1人という結果に、この割合が高いか低いか、1人でもドアを押さえる人がいるのか、それと

も1人しかいないのかの解釈は人それぞれです。

外来で若い女性から「先生、何歳ですか」と聞かれ、冗談のつもりで「100歳です」と答えたら「嘘でしょう」との返事に、「実は90歳です」と返したら「随分とお若く見えますね!」と言われたのです。そういうエピソードがあるくらい67歳にもかかわらず老けて見られる私が優先席の前の吊革に掴まって立っていると、優先席に座っていた70歳を超えていると思しきご老人が私を見るなり席を譲ってくれました。また信じられないことに、同僚は3歳の女の子から「お爺ちゃん座って」と自分の席を立てて譲られたのです。今回の対象外の3歳の幼児と70歳代の高齢者でも身に付いたマナーは終生変わらないのだろうと感じました。車内でよく観察すると、優先席に座って横に大きな荷物を置いて堂々とスマホをやっている高齢者や若者が見られます。

この検証で、仲間、恋人同士や夫婦間では気遣いのできるのに、見知らぬ人に対しては男女とも、そして男女の各年齢群とも低いとも思われました。日本人は「身内やお客様には親切で、関係のない他人となると無関心」と言われていますが（読売新聞：2017.9.5人生案内）、まさに今回の調査結果はこの事実を証明しています。

「席を譲る」とことと「ドアを押さえる」とことは他人への気遣いの表れであります。体調の悪い人や困っている人に席を譲る率はアメリカが51%、イギリスが63%、日本が何と19%です。「乗り物で席を譲る率はその国の民度のバロメーターにもなりうる」と考えらる（小檜山博：JR北海道車内誌）。「81歳の男性が妻と箱根に旅した時に、満員の登山電車などで若い男女と若い女性2人から2度席を譲られたのですが、何れも外国人旅行者であった」（読売新聞：気流）。さらに前出の小檜山博氏は「人間の知的教養の高さは、乗り物の中でお年寄りや体の不自由などの人に席を譲るかの一点で決まる」とまで言っているほどです。

つい先日のことですが、車内で座っていたら老婦人が乗り込んできたので、私はそっと立ちその方に席を譲ったつもりでしたが、先に若者が座ってしまいました。そうしたら私の隣の中年男性がその老婦人の肩を叩いて声を掛け、席を譲ったのです。老婦人は「助かった、ありがとう」と言ってニコニコ顔でした。何だかほっこりとした気持ちになりました。ちょっとした気遣いが世の中の潤滑油になることには異論はないと思います。そうです。まずは私自身も振り返らねば…。

講演から学ぶこと

北海道大学医師会
北海道大学病院 内科 I

水柿 秀紀

私の専門は肺癌の抗がん剤治療です。ここ数年の肺癌治療の進歩は目覚ましく、毎年標準治療が更新されています。編集に携わっている日本肺癌学会発行の「肺癌診療ガイドライン」も半年ごとの改訂が必要な状況です。

最近、講演の演者として全国各地からお声がけを頂きます。講演の内容は、抗がん剤の臨床研究の解釈や副作用のマネージメントです。難解な分野ですが、理解していただけるようにスライドを作成し、お話をさせていただいています。1回の講演時間は40～60分程度ですが、準備には何十倍もの時間を費やし、その多くは論文検索と読み込みです。論文の読み込みが甘いと講演中に自分の言葉に自信が持たなくなり、聴衆の何気ない動作や視線に気を取られ集中できなくなります。シッカリと準備ができた時は、言葉が滑らかに出て集中して話せるので不思議なものです。「常にいい準備をしようとしていれば、プレッシャーを感じることはない」。ラグビーの名将であるエディー・ジョーンズ氏の言葉です。スライドも細心の注意を払い作成します。フォント、文字の大きさ、配色など、現在のスタイルに固定するまでは試行錯誤の連続でした。スライドの背景は白、フォントは日本語では「HG丸ゴシックM-PRO」、英語では「Comic Sans MS」を使用しています。

講演後には現地の医師、薬剤師の方とお話をしますが、その際に頂く言葉が一番の励みになります。「分かりやすい講演ありがとうございました」「先生の講演を聞いて自分も頑張ろうと思いました」など、睡眠時間を削って準備して良かったと思える瞬間です。同時に言葉の持つ力を再認識し、患者さんと話す際の言葉についていろいろと考えることもあります。

留守が多い私を快く送り出してくれる医局の仲間たちと妻には本当に感謝しています。家族サービスの時間をもう少し増やさなくてはと反省しながら、論文片手にスライドを作る日々はしばらく続きそうです。

超高齢者のイレウス

札幌市医師会
札幌外科記念病院

江端 俊彰

私は札幌医科大学卒業後、大学で18年間、その後、急性期病院で27年間、外科、特に消化器外科医として勤務してきました。

最近、超高齢者の特異的イレウスを経験することが多くなりました。イレウスとは“腸管内容の肛門側への輸送が障害されることによって生ずる病態”と定義されています。イレウスは病型ならびに発生原因により、機械的イレウス（器質的障害により内腔閉塞）のうち、単純性イレウスと複雑性イレウスがあります。また機能的イレウス（器質的障害がなく、腸管の運動機能が障害）として、麻痺性イレウス、痙攣性イレウスに分類されています（表）。

近年、平均寿命の延長に伴い、80歳以上の超高齢者の増加が著しく、機能性イレウスで分類に当たらないイレウスを見かけるようになりました。腸管の拡張と蠕動運動の欠如を呈しています。精神疾患や認知症に罹患している場合が多いようです。精神患者さんは、大量の内服薬を服用し、運動不足もあり、食事摂取量は普通以上に摂るために、腸管の機能低下が著しく、機能不全になっています。これは医原性イレウスと考えています。また、認知症で介護施設等で生活している患者さんも、寝たきり状態や運動不十分のため、同様に腸管機能不全を呈することがあります。このような超高齢者イレウスは治療に難渋する場合があります。保存的治療としては、central venous port (CVポート) によるtotal parenteral nutrition (TPN)、percutaneous endoscopic gastrostomy (PEG) によるenteral nutrition (EN) の栄養管理、外科的治療では拡張腸管切除術やストーマ造設術を行うことがあります。

患者さんは経口摂取が不可能で、自己判断ができないことが多く、家族の介護やストレスも多いようです。超高齢者の増加は社会問題となりつつあり、健康寿命の延長を促進することが、われわれ医師に託された使命と考えられます。

表 イレウスの病型ならびに発生原因による分類
〔松倉三郎, 1971 一要約〕

A. 機械的イレウス
1. 単純性イレウス
a. 先天性
b. 異物
c. 腸壁の器質的変化——瘻管・腫瘍・癒着・屈折・索状物・圧迫
2. 複雑性イレウス
a. 絞扼性イレウス
b. 腸重積症
c. 腸管軸転不通症
d. 腸管結節形成症
e. 腹腔内腸嵌頓症
f. ヘルニア嵌頓症——内ヘルニア嵌頓症・外ヘルニア嵌頓症
B. 機能的イレウス
1. 麻痺性イレウス——腹膜炎・開腹術後・腹部打撲など
2. 痙攣性イレウス

運動器慢性疼痛の性差 —男と女、どっちが痛みに強いのか？—

札幌市医師会
札幌円山整形外科病院

竹林 庸雄

男と女、どっちが痛みに強いのでしょうか？ 何となくではあるが、男の方が痛みに弱い印象を抱いている方が多いのではないだろうか。日々の診療において脊椎外科を専門としている自分は、手術のinformed consentを行うことが多い。女性はしっかりと自分の病態を受け止め、手術内容を聞いても泰然自若としている感がある。一方、男性は手術と聞いただけでどこか忙しく、細部にわたって手術内容を質問することが多い。かくいう自分も歯科治療を受ける際には、「どこを削るのか？ 麻酔はしないのか？」などと治療前にいろいろ尋ねることが多い。幸い担当医は高校時代からの親友なので、嫌な顔せずに対応してくれているが、実は面倒な患者と思われているかもしれない。

われわれ整形外科が扱う骨、筋肉、関節などを運動器と呼ぶが、この運動器慢性疼痛の実態が昨今の調査で明らかになってきた。本邦における疫学調査ではVASで5以上の痛み（0～10の11段階で中等度以上の痛み）を3ヵ月以上持続している人の有病率は22.9%であった。性別で見ると男性20.0%、女性25.7%と、どの年代でも女性の方が男性を上回っていた（松平浩ら、ペインクリニック、2011）。欧州各国での同様な調査においても、慢性疼痛は女性の方が男性より多く罹患していた（European Journal of Pain, 2006）。このように、少なくとも疫学調査では、筋骨格の慢性痛は女性に多いようである。

それでは、痛みに対する性差は何故生じるのでしょうか？ 痛みに対する性差の反応をラットで調べた基礎研究が報告されている。それによれば、ラットでも雌の方が痛みに対する感受性が強く、同じ刺激を与えても痛みの持続期間は雌の方が長い。一方、この雌のラットに卵巣切除を行っても（つまり雄に近くなる）、痛みに対する反応には変化がない。つまり女性ホルモンであるエストロゲンは痛みに関与してないということである。

そこで最近注目されているのが、男性ホルモンであるテストステロンである。ご存じのようにテストステロンは、筋肉の増大、骨格の発達、闘争本能促進などの男性らしさを作るホルモンである。動物実験では、テストステロンを投与されたスズメは、熱い湯の中により長く脚を浸けていられることが報告されている。さらに、このスズメに抗男性ホルモン薬を与えると、脚を浸けていられる時間が半減する。

つまり、痛み刺激に脆くなるのである。一方、臨床研究では、線維筋痛症の女性に対してテストステロンを投与したところ、不眠、抑うつ、不安などの心理・精神的な要素は改善されなかったが、筋痛、こわばり、疲労感などの痛みに対する直接的な効果があったと報告されている。また、性転換を希望してホルモン療法を行った症例の痛みに対する感受性変化を調査した興味深い臨床研究もある。それによると、女性ホルモンを投与された男性のおよそ40%で急性痛の頻度が増加し、慢性頭痛を有していた2例は増悪した。一方、男性ホルモンを投与された女性の約30%が治療前に慢性痛を有していたが、その半数が治療後に大幅な改善を示した。このような動物実験や臨床研究の結果から、男性ホルモンであるテストステロンは慢性痛に対する治療薬として有望視されている。

運動器慢性疼痛は難治性な場合もあり、これまで非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）やオピオイドなどの鎮痛薬を中心とした薬物療法が行われてきた。今後は、性ホルモンによる新しいアプローチが加わることで、治療に難渋する慢性疼痛患者への救いとなることが期待される。

ところで、最近の女性の社会への進出は目覚ましく、男性以上に活躍されている女性が多い。まさに男勝りである。テストステロンは痛みに対する抵抗性を高めると同時に、闘争本能を促進することは前述した。もしかすると、最近の女性たちはテストステロンの量が多くなってきているのかもしれない。少なくとも、テレビ番組のチャンネル主導権争いで私を動かすわが家の女性たち（妻と娘）はテストステロンが多いような気がする。まあ、それでも痛みに対する抵抗性が増し、将来慢性疼痛に悩まされないなら、ありがたいことである。

謎が解けた

札幌市医師会
札幌臨床検査センター 病理診断部

水無瀬 昂

アメリカで病理のレジデントをするために29歳で飛行機に乗ったのが最初で、4年後に帰国して以降はどうも飛行機に乗る気になれませんでした。50歳を過ぎてから、システムなどの情報収集のためカナダ旅行を命じられ、やむなく飛行機に乗りました。その時、飛行機の窓から見た遠く of 山々や雲がきれいなことに感動しました。大気の状態を勉強したら飛行機嫌いも治るかもしれないと思い、気象の勉強を始めました。どうせならと気象予報士試験を受験し、悪戦苦闘の末に三度目の受験で何とか合格しました。

気象予報士会の北海道支部は毎月例会があります。医学とは全く関係のない話が聞けて楽しく、できるだけ参加するようにしています。気象予報士にはいろいろな業種の方がおられますが、その中の一人に旭川気象台の台長を務められて定年となったSさんがおられます。私のようにほとんど無知な人間にも、いろいろなことを分かりやすく説明してください。ある時Sさんが台風の話をしていました。何気なく聞いていた私の耳に突然「今回の台風は洞爺丸台風とほぼ同じ進路をとって…」という文言が飛び込んできました。「私はその時はまだ生まれていなかったのですが…」という言葉も聞こえてきました。その瞬間、小学生の時に経験した洞爺丸台風のことを突然よみがえってきました。

父は教師で、私が小学校に入学した年に校長として白神小学校(今は閉校)に転勤しました。松前町立の白神小学校は高台にありました。谷を挟んで白神村と荒谷村の二つの村があり、それぞれの村から高台の白神小学校に子どもたちが集まってきます。津軽海峡に面した白神は漁業の村です。夏イカ漁の時など、朝早く釣り船が大漁旗を掲げて戻ってくると、その大漁旗の数を見て、子どもたちが今日は手伝いに忙しいから2時間学校を遅らせるとか、午前は休みとか父が判断し、その知らせを高台にある両方の村から見える半鐘に旗を掲げて知らせていたと思います。高台にある小学校は吹きさらしですから、風が強かったです。私が小学校三年生の時に洞爺丸台風がやってきました。風はなんとも表現できないほどの猛烈さで、校長住宅にも風がビュンビュンと吹き込んできました。父は小学校の状況を見に行き不在でしたから、私たちは玄関の戸が吹き飛ばされないように居間の畳を起し、これを玄関の戸に立てかけ、風によって戸が吹き飛ばされないように必死

で押さえていました。風は畳を抑えている私たち子どもを押し戻すように猛烈に吹いていたかと思うと時としてパッと止み、しばらくしてまた猛烈に吹いてくるという繰り返しで、何時間も続いたように思います。そんな折、猛烈な風が止んでヤレヤレと何気なく外を見ると、高台の端に立っている半鐘がふと「音もなく、くずれるように」視界から消えました。崖下に転げ落ちていったのです。猛烈な風が吹いている時ならば理解できるのですが、その時はほとんど無風状態でした。そんな時に倒れたということが私には不思議でした。この時の記憶は折にふれてよみがえり、その都度「無風なのに何故」と思いました。そして、この疑問はその後もずっと解決できない問題として頭に残りました。

Sさんのお話を聞いたときに、突然この疑問がよみがえってきました。気象の権威ですから、予報士会の後の懇親会の時にSさんに疑問を投げかけました。「どうもこの現象が不思議で夢だったのかなと思うこともありますが、こんなことってありますか？」と聞いてみました。「あると思いますよ」とSさんは即座に言われました。その瞬間、あれほど長い間疑問に思っていたことが「そうですよね」と納得できました。そうなのです。同じように見えても地上と上空では風の強さも方向も異なります。このことは雲の動きを見れば分かりますし、気象予報士の勉強の時にも下層と上層の風の流れなど勉強しました。風のない地下街を歩いていて、ある場所で突然強い風が吹きつけてきてビックリしたこともあります。ジャンプ競技で次の選手にゴーサインが出ず、なかなか飛び出せないとか、前の選手は向かい風だったのに次の選手は後ろから押されて距離が伸びないなど、遠くからでは同じように見えても吹く風の強さや方向は分からないという体験や知識が突然結びついたので。ヤレヤレです。40年間もずっと疑問に思っていた謎が瞬時に解けました。

やっと謎が解けたとしばらくは思っていたのですが、そのうちに別な疑問が湧いてきました。あれほど長い間解けずにいた謎が、Sさんが「あると思いますよ」と一言言ったほとんどその瞬間に「そうですよね」と、納得でき、いろいろな知識や体験が瞬時に一つにまとまったと感じたのはなぜなのでしょう。新たな謎です。この謎はいつ解けるのでしょうか。解ける日を楽しみに待ちたいと思います。

川の流れるように

帯広市医師会
黒澤病院

前田 修一

ご存知、このタイトルは美空ひばりの最後の歌である。作詞は秋元康。この「川」はニューヨーク(NY)のEast Riverで、秋元康は一時NYに住んでおり、歌のタイトルは「ずっと East River を見ていたから自然と浮かんだ」と本人が回想しているとのことである。私も30歳代の前半にNYで働いており、オフィスはEast Riverのすぐ傍にあったので、毎日午後5時頃になるとEast Riverが最も良く見える部屋で、ボンヤリと川を眺めるのが常だった。一人のこともあったが、スタッフが何となく集まって来て、どうでも良い無駄話をすることも多かった。この頃のことを最近よく思い出す。その最初のきっかけは、ボスのRobert C Mellors(RCM)の妻のJaneが私に言った言葉を最近思い出したからだ。「スイッチ(私の名前の修一は、アメリカ人には発音できない)、私が最も誇らしく思うのは、一族に〇〇を職業としている人が一人もないことよ」。〇〇に入る職業は書くわけにはいかないが、当時の私にはアメリカ人、特にWAPS(白人でアングロサクソンでプロテスタント)の根本的な考え方に初めて触れ、大変驚いた。〇〇を、われわれ日本人は非常に良い職業と考えている。Janeのことを思い出して、RCMから毎年来ていたクリスマスカードが10年ほど来ておらず、多分亡くなったのだろうとは思ってはいたが、ネットで調べてみると、やはり2007年8月に亡くなっていた。同時に彼の代表的論文が2編ネットに出ていた。驚いたことにその一編目が、RCMの指導で私が書いた論文だった。たくさんの論文を書いた学者だったので、これは彼が選んだ論文だと思う。日本に帰ってから、自力でこの論文の続きを英文誌に投稿したところ、レフリーから論文はacceptする。ただし、共著者にはなっていないRCMに英語を直してもらうことが条件であると通知された。RCMに英文の手直しをお願いを電話した時の、彼の嬉しそうな笑い声は今でも耳に残っている。

同じ教室には、KorngoldというDr. がいた。免疫グロブリンのL鎖にκとλがあることを初めて発見した人で、名前から判るように、また外見も典型的なユダヤ人で、彼からは学問は教えてはもらわなかったが、パイプタバコの吸い方を教わった。爾来30年にわたりパイプタバコを楽しんだ。知っている人も多いと思うが、パイプは味が出てくるのは使い始めてから早くで半年後で、新しいパイプを購入す

る時に、半年後に良い味が出るかどうかを判断することが大きな楽しみとなった。10万円のパイプで失敗し、500円の安物で成功したこともある。彼は退職の時、彼の愛用のHandbook of Experimental Immunology, by D. M. Weir, 1967を小生にくれ、あのκとλの発見の元か? と愛用した。

教室の試験管洗いのオバさんに、黒人のローズがいた。日本から送られてくる食べ物アメリカ人も食べられるのかを試験する格好の人物で、多くの食品は平気だったが、羊羹は流石に無理だった。機械のmachineの発音が当時判らずローズにどう発音するか聞いたことがある。「スイッチ、マシーンは正しい発音ではなく、マッソンと発音するのよ」と教えてくれ、早速マッソンと言ってみたが全く通じなかった。この時、初めて彼女がフランス訛りの南部出身であることが判った。日本に帰ってから、彼女からも電話があった。「元気? 今度、娘が日本に遊びに行くので、娘が電話するわね」。のちに会うことがないローズの娘から本当に電話が来た。特に何も用のない電話だったが嬉しかった。

振り返って、皆とお喋りをしていたことを思い直すと、外国人についてが圧倒的に多かった。イタリア人、イギリス人、ドイツ人、プエルトリコ人。肝心なのは、本人が入って来るとピタリと、何食わぬ顔でその会話が終了すること。面と向かっては、絶対言わない。これは非常に大事な生活の知恵と思っ

た。「川の流れるように」の歌詞に「ああ川の流れるように とめどなく 空が黄昏に 染まるだけ」とある。この黄昏を毎日眺めていた人間がここにもいることに、共感と感慨を抱いている。



1980年NY, East River

右から3つ目の窓が横線になって並ぶ小さく見える建物にいました